

自ら学ぶ力と豊かな感性 — 春待つ水仙に想う —

校長 青野 保

落ち葉の中で、春を告げる花・水仙の葉が育ち始めました。冬本番を迎える時期ですが、自然はもう春を迎える準備を進めています。本年度も残すところ4カ月。これまでの成果をしっかりと見届けるとともに、来年度に向けた準備を進めてまいります。



ある生徒の私が出した課題への対応で、強く印象に残ることがありましたので紹介します。

○「図書室で調べました。」

〔課題1〕 武田信玄の主な居城名と所在地、武田三代の名前はそれぞれ何か。

ただし、インターネットの使用は禁止。

ネットの使用を制限したため、回答は恐らく翌日以降になるだろうと予想しました。ところが、約1時間後には、すべて適切な答えが用意してありました。どうやって調べたのかを尋ねると「図書室で調べました。どこに関連資料があるかは大体わかっていました」とのこと。デジタル全盛の時代にあっても多様な「自ら学ぶ力」を身に付けている生徒がいることを失念しかけている自分を反省しました。

○「そのような数字は書くのは…。」

〔課題2〕 埼玉県でも終戦間際に大空襲があった。その場所と当時の首長名、犠牲者数は何か。

この課題も極短時間で解決されていましたが、「犠牲者」の部分だけ空欄でした。「わからなかった？」と尋ねると「〇〇〇人です。でも、そのような数字を書くのは嫌でした」単なる数字ではなく、それが持つ意味や経緯などにも思いを寄せる生徒の心情に予め寄り添うことができなかつた自分の未熟さを思い知らされました。

本校生徒たちには、物事を多面的に捉え深く考える力が身に付いています。また、鋭い感性も育っています。4ヶ月後の年度末には、一層大きな花を咲かせるよう気を引き締めていくことを春待つ水仙に誓いました。